

2022年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	地域再生論（Community Revitalization）		
ナンバリングコード	L30108	大分類 / 難易度 科目分野	建築学科 専門科目 / 応用レベル 環境・地域
単位数	2	配当学年 / 開講期	3 年 / 前期
必修・選択区分	必修 ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	L010801	クラス名	-
担当教員名	島岡 成治、池畑 義人、吉村 充功、池見 洋明、中西 章敦		
履修上の注意、 履修条件	特にありません。 講義に遅刻、欠席することなく毎回出席して下さい。		
教科書	特にありません。		
参考文献及び指定図書	・地域ブランドと魅力あるまちづくり（学芸出版社）佐々木一成 著 ・地域再生学（晃洋書房）湯浅良雄・山本修平・崔英靖 編著 ・地域創生への挑戦（有斐閣）清成忠男 著		
関連科目	自然生態学、環境水理学、日本建築史、都市計画、ランドスケープ		

○基本情報		
授業の目的	少子化・高齢化が進む日本では、住民の生活が立ち行かなくなりつつある地域が地方を中心に顕在化しています。そのため、豊かな自然や伝統文化、地域の特性を活かした地場産業など、これまで魅力あふれ、独自性を発揮してきた地域が衰退する事態を引き起こしています。これから建築分野で活躍する皆さんは、これまで以上に地域の実情、特性を理解した上で、地域に必要とされ、地域再生に役立つ建築物を構築、保全していく能力が求められます。本講義では、地域づくりの成功事例など具体的な取り組みを中心に理解し、これからの建築学の基礎となる地域再生の考え方及び思考法を修得することを目的とします。	
授業の概要	本講義では、地域再生の手法を体系立てて学ぶだけでなく、実際に地域再生に携わる方々の視点での講義や教員が関わった地域での体験談、成功・失敗体験を聴く機会を多く設けます。体系と具体例を学ぶことで、地域再生に共通するキーを知り、建築学の視野を広げていくようにします。	
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「講義形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	「オムニバス方式」
	(3) アクティブ・ラーニング	「ディスカッション、ディベート」
地域志向科目	カテゴリー Ⅲ：地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
実務経験のある教員による授業科目	中西章敦（大分県土木建築部における大分県の道路・河川・地域づくりに関する行政） 「地域における河川等自然環境と地域創生に関する講義」	

○成績評価の指標		○成績評価基準（合計100点）		
到達目標の観点	到達目標	テスト （期末試験・中間確	提出物 （レポート・作品等）	無形成果 （発表・その他）
【関心・意欲・態度】				
【知識・理解】	①地域コミュニティー、地域経済、地域資源の現状を正しく理解できる ②地域特性ごとの具体的な地域再生の事例を理解している ③地域再生の手法を正しく理解できる	30点	20点	
【技能・表現・コミュニケーション】				
【思考・判断・創造】	④地域再生の手法を用いて、地域特性にあった地域再生の方法を提案できる	30点	20点	

○成績評価の補足（具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法）
各担当教員よりレポートを課します。その内容を到達目標に照らして、評価対象とします（各教員8点）。 レポートについては、原則として次回以降の授業中に返却し、講評・解説します。 また、各担当教員より期末試験問題を出題します。その内容を到達目標に照らして、評価対象とします（各教員12点）。

○その他

2022年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科 目 名	地域再生論（Community Revitalization）	授業コード	L010801
	担当教員	島岡 成治、池畑 義人、吉村 充功、池見 洋明、中西 章敦		
学修内容				
1. 地域コミュニティの現状と地域再生(担当:池畑) ■地方分権 ■市町村合併 ■高齢化 ■限界集落 日本特に地域社会はこれまでに経験したことのない時代を迎えようとしています。上にあげた内容によりながら、日本の地方の現状と課題について講義します。				
	予習	人口減少と高齢化社会が地域に及ぼす影響について、可能な限り調べる。		約2時間
	復習	講義を踏まえ、地域の豊かさに何が必要か、それぞれ自分の考えをまとめる。		約2時間
2. 地方経済の現状と地域再生(担当:吉村) ■地場産業 ■6次産業化 ■地域振興 地域振興・地域活性化を考える上で、地域経済や自治体の現状や課題を知ることが重要です。本授業では、まず自治体がまちづくりの観点から課題と考えていること及び現在進行形の地方創生政策を解説します。次に、大分及び九州の経済の特徴や状況を図表から理解し、地方再生を考える前提となる現状について理解します。Googleフォームの使用及びペアワークを行います。				
	予習	まち・ひと・しごと創生総合戦略とは何か。概要について調べて下さい。		約2時間
	復習	RESAS(地域経済分析システム)を使用し、授業内で指定したテーマについて地域の現状をまとめて下さい。		約2時間
3. 地域ブランドと特産物ブランドへの取り組み(担当:吉村) ■ブランドとは ■地域ブランドの種類 ■「関あじ関さば(大分市)」を中心に 地域再生において、その地域の特産品や資源を活用することが重要です。本授業では、地域ブランドの概要及びそれを活かした政策について解説します。また、地域ブランドを保護する政策として「地域団体商標」を取り上げ、その活用例として大分市佐賀関地区の取り組みについて解説します。地域ブランドを活かした地域再生法について理解します。				
	予習	地域団体商標とは何か。概要について調べて下さい。		約2時間
	復習	地域団体商標及び地域ブランドを活かした活性化策についてレポートを課します。		約2時間
4. 観光ツーリズムへの取り組み(担当:吉村) ■「由布院のまちづくり(由布市)」を中心に 地域再生の切り札として、観光振興・観光ツーリズムが注目されています。本授業では、まず観光政策の現状について解説します。次に最近のツーリズムの形態の変化や地域ツーリズムの具体的な分野について解説します。観光ツーリズムの先進地として有名な由布院のまちづくりを事例に観光ツーリズムを活かした地域再生法について理解します。				
	予習	訪日観光客の現状について調べて下さい。		約2時間
	復習	由布院のまちづくりをテーマにレポートを課します。		約2時間
5. アートによる地域づくり(担当:島岡) ■アートとは ■日本各地の例 ■「大分市」と「別府市」における活動と可能性 近年日本各地では、新しい美術館活動、芸術祭など芸術活動を起爆剤としたによるまちづくりや地域づくりが見られます。上にあげた内容によりながら、アートによる地域づくりの可能性と課題について講義します。				
	予習	アートによる地域づくりとはどのようなことか、いくつか具体例を調べておく。		約2時間
	復習	大分市において、どのようなアートによる地域づくりが可能か、自分の考えをまとめる。		約2時間
6. 景観形成(担当:島岡) ■景観とは－真鶴町と「美の条例」 ■景観法と景観条例－実例と課題 ■いくつかの景観論争から学ぶこと まちは変化していきますが、その中ですぐれた景観形成のためにどのようなことが問題となってきたか、そしてどのような課題があるかについて講義します。				
	予習	景観形成や景観保全とはどのようなことかをいうのか調べておく。		約2時間
	復習	時代の変化の中ですぐれた景観を形成することの可能性と課題について、自分の考えをまとめる。		約2時間
7. 歴史的まちづくり(担当:島岡) ■歴史的町並みの保存の例 ■大分県における小城下町や昭和の町(豊後高田市)における実例 ■まちにおける「歴史」の意味 上にあげた内容によりながら、まちの空間の豊かさにおける歴史的蓄積の意味について講義します。				
	予習	歴史的町並み保全においてどのようなことが行われているのか、具体例をあげ調べておく。		約2時間
	復習	歴史的にあるいは現代的に魅力的なまちを例に挙げ、まちの魅力とは何か、自分の考えをまとめる。		約2時間
8. 地域資源を災害から考える(担当:池見) ■地域再生や地方創生といった言葉の裏では、過疎化、限界集落、地方都市消滅、都市の過密化という問題が見え隠れします。この回では、このような視点から地域再生を支えるであろう地域資源とは何かについて考えます。その中でリスボン地震や明治維新などについて、別の観点から紹介します。				
	予習	地域資源とはなにかを考察し、自分なりの考えをまとめる。		約2時間
	復習	防災という観点から地域資源とは何かをまとめる。		約2時間

○授業計画	科 目 名	地域再生論（Community Revitalization）	授業コード	L010801
	担当教員	島岡 成治、池畑 義人、吉村 充功、池見 洋明、中西 章敦		
学修内容				
9. グスコーブドリの世界から考える地域資源(担当:池見) ■1995年の兵庫県南部地震(阪神淡路大震災)では国内の防災への考え方が大きく変わり、ハードによる防災からソフトによる防災／減災という言葉が生まれました。自助や共助、自己責任といった言葉が出てきたのもこの頃です。そして東北地方太平洋地震(東日本大震災)では、減災が一般化して、さらに国土強靱化というスローガンが新たに加わっています。このような国内の防災に対する考え方の変化について、宮沢賢治原作の「グスコーブドリの伝記」を例えにして解説し、地域資源とはなにかを考えます。				
	予習	「グスコーブドリの伝記」を読む。		約2時間
	復習	「グスコーブドリの伝記」を防災という観点から読み直す。		約2時間
10. ミティゲーションとレジリエンス(担当:池見) ■その2と同様に、この回でも、宮沢賢治原作の「グスコーブドリの伝記」を例えにして解説し、地域資源とはなにかを考えます。また、日本の防災の考え方の基本は消防だと言われてます。その問題点に対して、ミティゲーションとレジリエンスをキーワードにして、大分県の斜面災害から米国の災害管理サイクルモデル、欧州の圧力緩和災害モデルについて考えます。				
	予習	「グスコーブドリの伝記」を防災という観点から読み直す。		約2時間
	復習	これまで講義から災害という観点から地域資源とは何かについてレポートにまとめる。		約2時間
11. 生物多様性の保全の取り組み(担当:中西) ■世界・日本・大分県・県内市町村における生物多様性の保全 生物多様性の保全が叫ばれて久しく、SDGsの中でも生物多様性の保全が謳われている。これまでの世界的な生物多様性の保全に関する取り組みから、日本、大分県、大分県内の市町村単位での実際の取り組みについて学び、自分たちが地域単位で取り組める活動について考えます。				
	予習	生物多様性国家戦略について調べる。		約2時間
	復習	生物多様性の保全に関するレポートを課します。		約2時間
12. 防災と利用、自然環境の保全を両立させた地域再生(担当:中西) ■河川法の変遷に見る防災、自然利用、環境保全とグリーンインフラについて 昨今多発、激甚化する災害の復旧について、かつては防災と自然環境保全は相反するものであったが、河川法改正に伴い進んだ多自然型川づくり、それをさらに進めた形で取り組まれている多自然川づくりを例に、防災インフラの整備と自然環境保全の両立の現在、近年注目されているグリーンインフラの内容とその必要性について、大分県内の実例をもとに学習します。				
	予習	河川法の変遷と多自然川づくりについて調べる。		約2時間
	復習	グリーンインフラについてのレポートを課します。		約2時間
13. 自然環境の利用と保全(担当:中西) ■里山の保全と森里海川の連携 人間が生活することで自然環境の価値が向上する里山。この人間と自然との共存の考え方をもとに山域部の里地・里山から海域に至っては里海として同様の考え方が広がってきています。これら里山の保全の必要性と、森は海の恋人活動などをはじめとした山域から海域に至る連携について、大分県内の実例をもとに学習します。				
	予習	SATOYAMAイニシアティブについて調べる。		約2時間
	復習	里地・里山・里海保全に関するレポートを課します。		約2時間
14. 「共助社会づくり」による新たな地域づくり(担当:池畑) ■NPOによる地域づくり これからの地域づくりを考える上では、自助・共助・公助のそれぞれの考え方を理解し、上手に組みあわせていくことが重要です。その橋渡し役として、NPOの存在が重要となっています。本授業では、まず共助社会づくりの現状について解説します。次にその中心となるNPOについて、その概要及び事例を解説します。NPOを活用した地域再生法について理解します。				
	予習	「世界農業」の仕組み、および「世界遺産」との相違について事前に学習し、その要点をまとめる		約2時間
	復習	「世界農業遺産」による地域再生の他の複数の事例も調査して、その特徴と課題を明確にする		約2時間
15. 魅力ある地域づくりのために(担当:全教員) ■シンポジウム ■住民生活の再生 ■生活・文化 ■防災と自然環境 ■創造と活動				
	予習	これまでの授業内容についてまとめ、疑問点を整理して下さい。		約2時間
	復習	シンポジウムを踏まえて、授業内容から学んだことをあらためて整理して下さい。		約2時間
16. 期末試験 試験時間90分。				
	予習			
	復習			